

じていた。幼稚園関係者はこのいずれれを自分たちの立場にするかに
ついて明確な判断をもっていたとはいえないが、漸くそうした社会的
必要に動かされ、苦しい経営の中に、簡易幼稚園などの工夫を試
みていた。

他方、こうした実際界の動きの中にあつて、文部省督学官であつ
た森岡常威持論の幼稚園論が注目をひく。それは、幼稚園に労働者
家庭に対する社会政策的役割を負わせようとはしているが、その基
本線は、幼児期の発達が大正三年間の学習より心身発達上大きな意
味をもち、その時代の差別扱いが人間不平等の永遠の原因となる、
という教育論にあつた。

この両側面の力が幼稚園令に託児所としての機能を負わしたとい
えようが、知育と鍛錬を第一とする当時の文教政策には、幼児期の
教育は未だ厳密には重要視されず、形式的な法文の発布に終つたと
いわねばならないであらう。

昭和期の保育運動

愛知県立女子大学 宍戸 健夫

まず、保育運動というのは何か、ということを定義してかからね
ばならぬ。保育を運動としてとらえていいのかどうか、ということ
自体問題になってくるからである。

保育運動は教育運動などと同様、保育のための制度・内容・方法
・施設・機関などの改革や設置をめざす同志的集団活動である。こ
れには啓蒙のための宣伝活動が必ずともなっている。われわれは保

育史をこのような「運動」としてとらえる試みの重要性をかんがえ
ているのであるが、それがとくに注目されなければならないのは反
体制的運動としてあらわれたときである。

ところが、保育運動には「半官半民」の集団活動が多い。それは
それなりに評価しなければならないのであるが、一方、反体制的民
間運動として保育運動が存在していたかどうか。存在していたとす
るならばどのようなものであつたかを明きらかにしていくことは重
要であらう。

その一つとして、保育問題研究会（会長城戸幡太郎 昭和十一年
発足）をかんがえてみよう。

この研究会とその運動がおこってくるのには、実証主義的心理学
の研究がとくにかんがえられなければならない。その保育思潮をみ
るに、「社会環境」、「生活力とくに生産的活動能力」、「社会生活と
くに協同生活」の重視などがあげられるであらうが、その一つひと
つは昭和という時代背景をぬきにしてはかんがえられない。

この保育思潮の提唱は、研究者と保母たちとの一体となつた研究
活動を生みだし、保育の内容・方法の上にも変化をあたえたのであ
る。

昭和期における保育会の動き

都立立川短期大学 水野 浩志

大正十五年の幼稚園令制定以前におけるわが国の主要保育研究団
体としては日本幼稚園協会（明・29・フレールベル会として発足）と京

阪神聯合保育会（明・30発足・現在の関西連合保育会）の二大組織があるのみで、その他にはごく少数の地方保育会が結成されていたにすぎない。

幼稚園令制定前後から昭和の初めにかけて幼稚園の社会的認識が高められ、全国各地の県・市に保育会が急激に結成され始め、大分県（大・12）和歌山県（大・14）福岡市（大・15）宮崎県（大・15）島根県（大・15）熊本市（昭・2）群馬県（昭・2）東京保育協会（大・14）、やがてそれらの連合組織のさがげとして中国・四国・九州保育連盟（昭・6）が結成されるに至り、全国に強力な連合組織を作る気運をまき起こした。しかしながら、倉橋惣三氏はじめ、当時の幼児教育関係者一同の念願であった全国的な保育連合組織の結成は、多くの努力にもかかわらず、容易にその実現を見ず、結局その実現をみたのは戦後の昭和二十一年のことであった。

全国保育連合会は全国を九地区ブロックに分け、九地区別保育連合会の統轄機関として組織されたものであり、その強力な母体の下に全国保育大会を年一回ずつ開催したのであり、ここでは幼稚園も保育所も公立も私立も皆一体となつて、保育の諸問題を研究・討議し、当局への建議、統一の実践運動を展開したのであった。しかしながら、多くの期待と喜びをもって迎えられたこの連合会も組織が完成され、意欲的になるに従い、かえつてその反面、保育所と幼稚園という目的と使命を異にする機関の差異が次第に意識されるに及んで、まず幼稚園研究団体と保育所研究団体とが分裂し、更には私立と国公立とがそれぞれの団体を結成し、お互いにその組織の強化を図るに及んで、全国保育連合会は下部組織たる各地区保育連合会から崩壊し始め、第六回松江大会を最後として、昭和二十八年ついに解散するに至つた。かくて現今保育会は同じく「幼児を保育する」

という大きな目的のために幼稚園・保育所・公立・私立すべてが一体となつて協議し、閉結する強力な母体組織を失い、対立・分裂の傾向をますます深めつつある。その点日本保育学会は保育学確立のため戦後発足した研究機関ではあるが、現今における唯一の全国国公立・私立、幼稚園・保育所合同の研究討議の場として重要な役割・意義をなつてきつたとはいへよう。

戦前における保育問題研究会、キリスト教保育連盟、仏教保育協会など重要な全国的研究団体の動きおよび戦後のその他の保育研究機関団体については次回にゆずる。

（註）① 関西連合保育会は、明治30年第一回協議大会開催以来連続した年次

大会を開き昨年第六十回大会を岡山市において開催した。わが国保育会の發展史上特筆すべき偉業であろう。

② 全国保育連合会は昭和26年に日本保育連合会と改称したが、その全国保育大会は、次のごとく開催された。第一回（昭・22・東京）第二回（昭・23・奈良）第三回（昭・24・新潟）第四回（昭・25・福岡）第五回（昭・26・仙台）第六回（昭・27・松江）

③ 日本私立幼稚園協会（日・私・幼）は昭和二十三年結成され毎年一回總會および大会を開催している。昨年第十一回。日・私・幼教育研究全国大会は昭和二十九年第一回を開き昨年第五回大会開催

④ 全国国公立幼稚園長会は昭和二十五年結成され、年一回總會および大会開催、昨年度第九回。全国国公立幼稚園教育研究協議会は昭和二十九年第一回を開き、昨年第五回大会を開催している。

⑤ 保育所は全国社会福祉協議会保育部会という半官半民の団体組織で結束していたが、昭和三十一年に全国私立保育園連盟が生まれた。